

第4学年 組 国語科学習指導案

平成27年 7月 8日(金) 第 5 校時

指導者 教諭 A. S

児童数40名(男子20名 女子20名)

1 単元名・教材名 場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう

「一つの花」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

本学級の児童が物語教材に触れるのは、4月に学習した「白いぼうし」に続いて二つ目である。その際、登場人物の性格や気持ちを想像しながら読み、交流活動を通して様々な見方があることを学んだ。しかし、「ぼんやり」や「あわてて」など、文章の中ででてきた一部分だけをとりだして、松井さんの人柄を「ぼーっとした人」や「あわてんぼうな人」などと解釈する児童もおり、文章全体から読み取る力が弱い児童もいる。

物語文に関して意識調査を行ったところ、「物語を読むのが好き」と答えた児童は87.18%だった。好きな理由としては「想像が広がるから」「違う世界や国に行った気持ちになれるから」という理由が多かった。また、嫌いな理由としては、「読んでいるうちにわからなくなるから」「たくさん字を読むのが苦手だから」という理由があげられ、物語の情景や人物像、人間関係などを捉えることが苦手であり、想像力に乏しいことが伺える。同じように、友だちと考えを交流することについての調査では、「話し合うと勉強になる」と答えた児童が82.05%と多かった。理由は様々だが、友だちの考えを聞くと新しい考えが思いつくからという意見が多かった。このことから、これまでの交流活動の中で、自分の考えを友だちに聞いてもらったり、友だちの考えを聞いたりする中で、新たな発見があったのではないかと考えられる。

これらの実態から、本単元では、紹介ポスターをつくるという活動にむけて、登場人物の心情や情景、大切な言葉に着目して読み、場面全体の様子を捉えさせていきたい。また、ポスター作りを通して友だちからアドバイスをもらったり、完成したポスターを見合って感想を交流したりする活動を通して、話し合い、学び合う態度を育てていきたい。

(2) 単元について

本単元では、物語を読んで紹介する活動が設定されている。学習指導要領解説【国語編】によると、物語を読んで紹介するためには、なぜ紹介したいのかという理由が必要である。本作品はとくに「一つだけ」という言葉が効果的に使われ、戦時中の小さな女の子の気持ちや、両親の思いに共感しやすい作品である。そこで、作品を読んだ感動を話したくなるという児童の心情を大切に、読みを深めていきたい。そのためにも、登場人物の気持ちの変化や、あらすじを理解させ、読んだ感動を伝えられるように紹介する活動につなげていきたい。

この物語は、ゆみ子に対する両親の思いが、「一つだけ」というキーワードを軸に人物の行動として表現され、出来事が展開する。戦争中と「十年後」の戦争後の場面の移り変わりを捉えるのはもちろん、両親のゆみ子に対する思いを叙述に即して読むことにも取り組みたい。また、「一つの花」という題名が象徴するテーマをめぐって、さまざまな角度から着目することができるため、友だちと交流する中での考え方、感じ方の違いへの気づきを促すであろう。

そこで、単元の最初に「紹介ポスターを作る」という目的をもたせ、自分が特に共感したところや感動したところを伝えられるよう、意識をもって学習させたい。また、紹介をするためには、あらすじや読んで心に残った文や言葉とその理由を視点としてもたせ、物語を読み深めさせていきたい。

(3) 単元を貫く言語活動とその特徴

本作品「一つの花」では、文章の中に繰り返し「一つだけー。一つだけー。」という特別な言葉が出てくる。このキーワードに着目して読む力を身に付けさせ、物語をより深く理解させていきたい。また、テーマに沿って本を紹介するという活動は、日常での読書の世界を広げる方法となるだろう。そこで、本単元では並行読書を行うことで読書の世界を広げることに繋げていきたい。また、この作品では、テーマをめぐってさまざまな角度から着目し、それを交流することができる。そのなかで様々な見方や考え方があることを実感し、話し合いが活発におこなわれることを期待する。

3 研究主題と本単元とのかかわり

一人一人を確実に伸ばす授業の創造
～確かな学力を身に付け、自ら学ぼうとする児童の育成～

仮説1

自分の考えをしっかりともち、課題解決に向かって意欲的に解決する場を設定すれば、自ら学習する児童が育つであろう。

- ①自力解決の時間を十分にとり、一人一人が自分の考えをもてるよう支援していく。
- ②最後に読書ポスターを作る見通しをもたせ例を提示することで、自分の考えをもつ意欲付けをする。

仮説2

自分の意見を表現し、他と比較しながら聞く話し合い活動を続けていけば、学び合う姿勢が身につくであろう。

- ①自力解決後にグループでの交流、全体での交流を位置づけ、さらに思考ツール「ボックスチャート」を利用したブレインストーミングを行うことで、互いの考えの共通点や相違点を意識させながら話し合いを進めていく。
- ②様々な考えに触れられるよう、少人数グループでの話し合いの形をとる。

仮説3

学習を振り返り、自己評価や相互評価をする学習を積み重ねれば確かな学力が身につくであろう。

- ①学習の終末に振り返りの時間を取り、次時に生かす。
- ②単元の終末に、読書紹介のポスターを見合い、感想を交流する活動を行う。

4 単元の目標

- (1) 人物の行動や心情、場面の様子がよく分かるように工夫して、読書ポスターを作ることができる。
[関心・意欲・態度]
- (2) 思考ツールをもとに、自分の意見を伝えたり、友だちの意見を取り入れたりすることができる。
[話すこと・聞くこと]
- (3) 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。
[読むこと]
- (4) 物語を読み、心に残ったことをもとに書くことを決め、読書ポスターを作るために必要な事柄を選んで書くことができる。
[書くこと]

5 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ 言語に関する 知識・理解・技能
単 元 の 評 価 規 準	・物語を読み、心に残ったことをもとに、進んで内容を友達に紹介しようとしている。	・物語を読み、心に残ったことをもとに書くことを決め、紹介するのに必要なことを選んで書いている。 ・強く心に残った言葉や紹介したいことを明確にして書いている。	・会話や心情表現、行動に着目し、人物の気持ちを考えている。 ・物語の紹介のしかたから、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気付いている。 ・紹介したい本を選んで読んでいる。	・様子を表す言葉について考え、言葉を置き換えると印象が変わることに気付いている。
学 習 活 動 に 即 し た 評 価 規 準	① 「心に残ったことをもとに、作品を紹介する」という学習に意欲をもっている。 ② 題名から内容を想像し、物語に興味をもって、範読を聞いて、自分なりの感想をもっている。	① 読み手を明確にし、心に残ったことをもとに、書く事柄を決め、紹介するのに必要なことを選んで書いている。	① 戦時中の時代や暮らしの様子を叙述をもとに想像して読んでいる。 ② 特別な言葉に着目し、人物の行動や会話から、人物の心情や世の中の状況を捉えている。 ③ 紹介を聞きあい、一人一人の感じ方の違いに気付いている。 ④ 紹介したい本を選んで読んでいる。	① 副詞の違いで、文が表す様子に違いがあることに気づいている。

6 指導と評価の計画（全8時間）

次 時	主な学習活動 学び合う学習の具体的手法 仮説との関わり	学 習 内 容	評価基準・評価方法
第 1 次	① 教師が作成した「読書ポスター」を見て、学習の見通しをもち、「読書ポスターで、友だちに本を紹介しよう」という学習課題を設定する。（仮説1-②） ② 「一つの花」という題名から、物語に興味をもつ。 ③ 教師の範読を聞き、初発の感想を持つ。	・ポスターの構成や内容をつかむ。 ・「平和」をテーマにした本の並行読書を促す。 ・題名には作者の思いが込められていることを伝える。	アの①② ・観察 ・ノート ・発言
第 2 次	④ 語の設定を確かめ、人物の行動や会話に着目し、人物の気持ちや世の中の様子、出来事を押させる。（仮説1-①） ・ボックスチャートを使った話し合いをする。（仮説2-①②） ・終末に学習の振り返りをし、学習感想を書く。（仮説3-①） ⑤「たいせつ」を参考に、「一つだけ」	・ボックスチャート図を使い、個々の考えを書きこむ。 ・繰り返し出てくる言葉が、物語の中で重要な役割を果たしていることを確かめる。	エの①② ・ノート・発言

		という言葉に着目し、題名に込められた作者の思いを考える。		
	5	⑥登場人物の心情や情景、大切な言葉に着目して読み、「一つの花」のポスターを作る。	・教師の示した作例を参考にしながら、ポスターを作る。	ウの① ・観察
第3次	6・7	⑦「平和」をテーマにした本を選び、ポスターをつくる。 ⑧作ったポスターをもとに、友だちと交流する。(仮説3-②)	・「平和」をテーマにした本の中から、ポスターにした本を選び、ポスターを仕上げる。	アの① ウの① エの③④ ・観察
	8	⑨「言葉」を振り返る。 ⑩学習を振り返る。	・ポスターをもとに、友だちと本を紹介し合う。	オの① ・発言

7 本時の学習指導（本時 4 / 8）

(1) 目標

第三場面について、人物の会話や行動から、登場人物の気持ちや世の中の様子、出来事を読み取ることができる。

(2) 評価規準

ゆみ子とお母さんの行動・会話から、戦争後の暮らしについて想像を広げて読むことができる。

(3) 展開

学習活動 学び合いの学習の手法	学習内容	指導と評価の創意工夫 ☆研究主題とのかかわり	時間
1 前時の学習を振り返る。	○ 場面の確認	・これまで学習した場面を振り返り、「一つだけ」に込められたゆみ子の思いを押さえる。	5分
2 本時のめあてを確認する。	○ 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">第三場面を読み取ろう。</div>	・ノートに書かせ、全体で声に出させる。	
3 本時の学習場面を読む。	○ 世の中の様子を考えた音読の仕方	・正しく、はっきり、すらすらと微音読をさせる。 ・戦中と比べ、世の中がどのように変化したかを考えながら音読するよう指示を出す。	5分
4 世の中の様子を押しさえる。	○ 世の中の様子の確認	・道具や食べ物などを叙述から探し、戦中と戦後を比較させ、世の中の様子の変化に気づかせる。	
5 「一つだけ」という言葉が第三場面に出てこない理由について自分の考えを書き出す。	○ 叙述をもとにした自力解決 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">・戦争がおわって、たくさん食べられるようになったから。 ・平和になって、いろいろなものが手に入るようになったから。 ・コスモスが一つだけだったけど、たくさん咲いているから。</div>	・二人の暮らしぶりから、母親やゆみ子の気持ちを想像し、理由を考えることを伝える。 ☆のちの交流でなるべくたくさんの考えがだせるよう、一つだけでなくいくつもの意見をかくよう指示をだす。	5分

<p>6 グループで交流する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ボックスチャート</p>	<p>○ 交流の仕方</p>	<p>☆思考ツール「ボックスチャート」を用いてブレインストーミングを行う。友だちの考えと自分の考えを比較しながら、真ん中の枠の中にグループの考えをまとめていく。(仮説2-①②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に話し合えるようにするため、あえて話型を使わない。 ・友達の考えを否定したり批判したりしてはいけないことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価場面</p> <p><評価規準>エの①</p> <p><評価の方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートの考察 ・話し合いの様子を観察 <p><手立て></p> <p>A の児童には、自分の考えと友だちの考えとの相違点や共通点を見つけながらグループとしての考えをまとめていくよう伝える。</p> <p>C の児童には、挿絵をヒントにしなが読み取り、自分の考えを伝えるよう促す。</p> </div>	<p>15分</p>
<p>7 全体で意見を交流する。</p>	<p>○ 全体の交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ交流でまとまった意見を発表し合い、全体で交流する。父親の残したコスモスや、ゆみ子と母親の会話や行動から平和で豊かな世の中になったことに気づかせる。 	<p>10分</p>
<p>8 題名について考え、学習を振り返る。</p>	<p>○ 学習を生かしたまとめ</p> <p>○ 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この作品のキーワードである「一つ」「一つだけ」という言葉の役割を考えさせることにより、父親の愛情の深さや戦中から戦後へと移り変わる時代の流れを捉えさせる。 <p>☆ノートに本時の学習の課題に対する感想を書かせる。話し合いや自力解決についての感想にならないよう指導する。(仮説3-①)</p>	<p>5分</p>

8 板書計画

物語を読んでしようかいしよう

一つの花 今西祐行 作

めあて

第三場面を読み取ろう。

